

第48回 山田養蜂場文化セミナーにて講演
この春、今すぐ知りたい！
自然治癒力を上げるプロポリス
-マウスからヒトまで、研究内容を発表-

株式会社山田養蜂場（代表：山田英生）は、2013年4月13日、岡山市にて、第48回山田養蜂場文化セミナーを開催しました。セミナーでは、ブラジル産プロポリス¹⁾の免疫に対する作用に関して、最新の研究成果を含む、長年の研究成果を一挙にご講演いただきました。講演内容は下記の通りです。

講演内容の詳細は、2ページ目を参照ください。

講演① ブラジル産プロポリスの免疫に対する作用

免疫分析研究センター株式会社／取締役社長 立藤 智基 氏

立藤氏のコメント

「免疫力の要は、“粘膜や皮膚でのバリア機能”と“免疫細胞の働き”を保つことです。プロポリスは、バリアを強化するビタミンE等や、攻めを強化するポリフェノール等を含み、免疫力を改善し、アレルギーや風邪から、私たちを守ってくれることが期待されます。」



講演② 臨床におけるブラジル産プロポリスのスギ花粉症軽減効果

鳥取大学医学部附属病院耳鼻咽喉科／科長・診療教授 竹内 裕美 先生

竹内先生のコメント

「重大な国民病の1つであるスギ花粉症のつらい症状や治療薬の使用量を、プロポリスが軽減させることがヒト試験により明らかとなりました。世界各地で生活に取り入れられてきたプロポリスの予防的な摂取が、補完代替医療となりうることは、生活の質向上ならびに医療費削減のために大変有用であると思います。」



1. ブラジル産プロポリスの免疫に対する作用

免疫分析研究センター株式会社 取締役社長 立藤 智基 氏

自身の体を守るチカラ“免疫”。免疫力を保つためには、よく笑いよく休養するストレスを溜めない生活と、バランスの良い食事がポイントです。加えて、サプリメントを取り入れることも有用です。免疫力の“バリアと攻撃の向上”が期待されているプロポリスの最新の研究成果を報告しました。

【最新研究報告】

①関節炎に対する作用（マウス試験）※1,2：2009年度みつばち研究助成基金採択テーマ

関節炎を誘発させるモデルマウスに、プロポリスを長期投与することで、炎症の進行を抑えること、そのメカニズムとして、関節炎を引き起こすインターロイキン 17 (IL-17)²⁾の生産を抑えることが示されました。

②喘息に対する作用（マウス試験）※3：2008年度みつばち研究助成基金採択テーマ

喘息を誘発させたモデルマウスに、プロポリス蒸気を鼻から吸引させることで、過剰な免疫反応を抑えることが報告されました。

③風邪に対する作用（ヒト試験）※4：みつばち健康科学研究所 研究

健康な成人男女 59 名（30～50 歳代）を、30 名と 29 名の 2 グループに分け、一方にはブラジル産プロポリスエキス（450 mg）を含むソフトカプセル（以下、プロポリス）、もう一方にはプロポリスエキスを含まないソフトカプセル（以下、プラセボ）を 60 日間継続して飲用してもらいました。

風邪が治るまでの日数は、プロポリスを飲用したグループでは平均 2.0 日、プラセボを飲用したグループでは平均 3.2 日となり、プロポリス飲用により風邪が治るまでの日数が短くなりました。以上の最新の研究報告から、ブラジル産プロポリスが“免疫バランスを整えること”が示されました。病気になるにくい体をつくる“予防医学”の実践の一助となることが期待できます。

2. 臨床におけるブラジル産プロポリスのスギ花粉症軽減効果※5,6

鳥取大学医学部附属病院耳鼻咽喉科科長 診療教授 竹内 裕美 先生

ヒトのスギ花粉症に対するブラジル産プロポリスの有効性と有効摂取量を調べるため、2005 年と 2006 年の 2 回、ヒト試験を行いました。

【結果とまとめ】

2005 年に、60 名のスギ花粉症ボランティアをプロポリス摂取群 15 名、花粉荷³⁾摂取群 15 名、ハーブ/プロポリス摂取群 15 名、プラセボ群 15 名に分け、花粉飛散開始前の無症状の時点から 12 週間、試験食（ブラジル産プロポリスエキス 300 mg/日）を摂取させました。プロポリス群およびハーブ/プロポリス群はプラセボ群に比べ、花粉症薬の使用が減少しました。さらに 2006 年、プロポリスの有効摂取量を検討するため、80 名のスギ花粉症ボランティアを低用量群（150 mg/日）、中用量群（300 mg/日）、高用量群（450 mg/日）およびプラセボ群の 20 名ずつに分け、花粉飛散開始前の発症前の時点から 12 週間、試験食を摂取させました。その結果、プラセボに比べ、中用量と高用量のプロポリスがスギ花粉症の発症を有意に遅らせることができ、また高用量のプロポリスは、鼻詰まりの症状を明らかに軽減させました。2 つの試験の結果から、ブラジル産プロポリスのスギ花粉症に対する有効性が確認でき、ブラジル産プロポリスがスギ花粉症患者の生活の質（QOL）向上に役立つことが示されました。

参考資料

《論文発表》

- ※1 Okamoto Y *et al.*, *Inflammopharmacology*. 20(1), 19-26, 2012
- ※2 Okamoto Y *et al.*, *Immunopharmacol Immunotoxicol*. 34(5), 803-9, 2012
- ※3 Hirota R *et al.*, *American Journal of Preventive Medicine*. 7, 95-102, 2012
- ※4 Okuma T *et al.*, *Pharmacometrics*, 79 (3/4), 43-48, 2010
- ※5 Takeuchi H *et al.*, *Pharmacometrics*, 76(3/4), 71-77, 2009
- ※6 Takeuchi H *et al.*, *Japan Pharmacol Therapy*, 38 (11), 1041-1050, 2010

《用語説明》

- 1) プロポリス…ミツバチが、植物の樹脂や樹液、あるいは新芽や浸出物と、自身の分泌するミツロウを混ぜあわせて作る粘着性の物質で、産地や起源となる植物により有用成分が異なる。
- 2) インターロイキン 17…炎症を誘導する糖タンパク質。関節リウマチをはじめとする自己免疫疾患、炎症性疾患、アレルギー反応などに関わっていることが報告されている。
- 3) 花粉荷…ミツバチが蜂蜜を集める際に体に付着した花粉を団子状に固めたもの。巣に持ち帰って食料とする。また、ローヤルゼリーやプロポリスを作り出す際に用いる。ヨーロッパでは古くから栄養価の高い食品として用いられてきた。